

諏訪小だより

令和3年5月31日
6月号
多摩市立諏訪小学校
校長 齋藤 幸之介

「利他心」ーコロナ禍で学べることを模索しながら

3回目の緊急事態宣言による措置は、その期間をさらに延長させる、との報道がされております。新型コロナウイルス感染症のまん延を抑えるための手立てが、一方で国民の生活に大きな影響を与えていることは私が述べるまでもありません。それでも、日々学校にやってくる子供たちの頑張りに私共は感謝と感激をしているところであります。保護者の皆様の御理解と御協力に改めて御礼を申し上げたく存じます。

このような状況下、私共は、子供たちが何を学ぶことができるか、と考えております。そんななか、私は先日、2回目の緊急事態宣言が発令された頃の新聞記事を読み返しておりました。そこには「利他心」とありました。東京大学教授の渡辺努先生のお話でした。

「利他心」とは

稲森和夫さんは、京セラや第二電電（現 KDDI）の創設者であり、また日本航空を経営難から再建したことを始めとする数々の業績であまりに有名です。稲森さんは、かつて中学生に講演をされていますが、その中で「利他の心」をお話しされています。稲森さんは、人間の心の奥底には「他を慈しみ愛する、優しい思いやりの心」があり、これを「利他の心」と説いていらっしゃいます。稲森さんは同時に人間の本能には「自分だけよければいい」という「利己的な心」があることにも触れられています。

稲森さんは、大学卒業後に入社した松風工業で「なんとかこの会社を立派にしなければならない」と、研究室に鍋や釜を持ち込んでここで自炊をしながら、新しいファインセラミックスという優れた素材を開発したこと、この実績を見た人が「会社をつかってあげるから、そこでもっと実力を発揮したらどうか」と稲森さんに京セラという会社をつくったこと、社員そして利用する国民のために日本航空の再建に尽力されたことなどをお話しされています。全てに共通するのは「世のため人のためになること」、つまり「利他の心」でありました。（「君の思いは必ず実現する」 稲盛経営哲学研究センター教育実践研究誌「RITA」vol.13、http://www.ritalabo.jp/mg/wp-content/uploads/2016/02/Rita_Vol.13.pdf）

今求められる「利他心」

冒頭に御紹介した渡辺努先生は、「コロナ慣れ」「自粛疲れ」に触れながら、人々の心の変化を述べていらっしゃいます。当初は「多くの国民が「自分もかかるかも」という恐怖心から外出を控えていた」のが、昨夏の第二波以降はこれが弱まった、とおっしゃっています。渡辺先生は、感染を怖がらないと若者が考えるのは合理的であるとしながらも、次のように続けていらっしゃいます。「今後は、恐怖心ではなく、周囲に感染させないように心掛ける「利他心」に訴える必要がある」。そして、互いに守りあおうと訴えるメッセージが大切である、とまとめていらっしゃいます。（東京新聞 令和3年1月6日朝刊）

これも新聞記事からです。日々心配しながら出勤を見送る中学生に、看護師である母が次のように笑顔で言ったそうです。「私の事を思うなら、あなたのことを一番大切にしてください」（朝日新聞 令和3年1月5日朝刊）。その通り、と深くうなずくところです。同時に、この難局は一人だけの努力で解決しないことは自明の理であります。ならば、どうするのか。子供たちにはあまりに難しい「問い」であります。しかし、こうして世の中には素晴らしい手かがりがあります。そして、私共は、これらを礎としながら子供たちに現状を捉えさせ、そして共に歩んでいきたい、と改めて思っています。